掟光寺だより

令和5年
１１月号

行事案内

●１１月６日（月）
「宗祖報恩講」
１３時３０分

七五三

●今年の七五三は１１月１５日。年頃のお子さんがいらっしゃるご家庭ではお近くの神社仏閣に行かれると思います。子どもの成長を祝い、氏神さまや菩提寺にお礼参りをし、これからも「どうぞお守りください」とお願いするのが七五三です。

先日、テレビを見ていたら、NHKの番組『チコちゃんに叱られる！』で「七五三はなぜ３歳５歳７歳でお祝いする？」というテーマで紹介されていました。結論から言うと「昔は３歳、５歳、７歳まで生き延びるのが大変だったから」だそうです。

医療など様々な事が今より発達していなかった昔は、子どもが無事に元気に成長する事はとても難しかったようです。今では当たり前ともいえる事が、昔は当たり前ではありませんでした。

たしかに、戦前以前の戒名が残っているお宅にお参りに伺うと、お位牌に書いてある戒名に早く亡くなったお子さんがなんと多いことかと思うことがあります。ちなみに豆知識ですが各歳の戒名は次のようになります。

・水子…流産、死産
・嬰子・嬰女…当歳（０～一歳）の男女
・孩子・孩女…２、３歳の男女
・童子・童女…４歳～１４歳の男女

●七五三という名称がついたのは明治時代だそうで、元々はそれぞれ別の祝いだったそうです。もっとも古いのが平安時代からある３歳の祝い、次に７歳の祝い、そして、５歳の祝いという具合に誕生しました。

３歳の祝いは髪の毛と伸ばし始める儀式「髪置きの儀」、７歳の祝いは帯で巻く大人の着物に初めて着替える儀式「帯直しの儀」、５歳の祝いは男の子がはかまをはく行事「袴着の儀」がそれぞれの起源になります。子どもたちの成長を祝うと同時に、その年齢に即した「役目」を与えてあげることが子どもの成長につながると考えられてきました。

江戸時代なると５代将軍・徳川綱吉が３歳になる長男を１１月１５日に盛大に祝ったことでお祝いの日として定着し、それが民衆にも広まり、いつしか１１月１５日に３歳も５歳７歳も一緒に祝うようになったそうです。

明治時代に入ると七五三が全国に広まります。そのきっかけになったのが百貨店です。百貨店は元々が呉服屋から始まったお店がほとんどで、子ども用の着物が売れる機会を増やそうと七五三を盛り上げ、「七五三」という言葉が世間に定着しました。戦後になると女の子は３歳・７歳、男の子は５歳で祝うようになったそうです。文化の変化というのは面白いですね。

●七五三というのはどうにか親の手を離れ、少しずつ一人歩き出来るようになったという親御さんの喜びもひとしおです。

日蓮聖人のお言葉にも「親の苦をやすむるは子なり」（浄蓮房御書）とあります。どんなに苦労しても、子どものためならと辛抱できるのが親というものです。お釈迦さまも「我も亦これ世の父、もろもろの苦患を救うものなり」（如来寿量品）とおしゃっています。

ご縁とはつながって生きているということであり、まさに父である佛さまが常にあたたかく子どもである私たちを見守ってくれているようなもの。七五三とは今あるいのちの繋がりを感じるきっかけであり、ご先祖さまからいただいたご縁を、次の世代の子どもたちに受け継いでもらうそんな儀式ではないでしょうか。